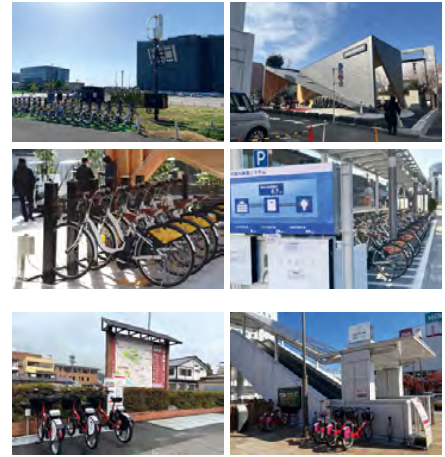


非接触充電システムを採用したシェアサイクルサービスは、ユーザーにとって充電不足の心配を減らし、いつでも快適に利用できるという大きな利点をもたらしています。

さらに、オペレーションの自動化は、運営コストの削減にも寄与します。人的介入を減らすことで、メンテナンスや充電管理の効率が向上し、コスト削減に繋がります。また、非接触充電システムの整備にあたっては環境配慮も意識しています。再生可能エネルギーを活用した充電ステーションは、環境負荷の低減に貢献しており、持続可能なシェアサイクル運営を実現しています。

具体的な例として、さいたま新都心バスターミナル（さいたま市）では、都市型風力発電と併設された非接触充電ステーションが設置されています。また、ENEOSマルチモビリティステーション（世田谷区）や静岡駅北口駅前広場（静岡市）では、ソーラーパネルを利用した非接触充電が行われており、太陽光を有効活用しています。

これらの取り組みは、シェアサイクルが単なる移動手段を超え、環境に配慮した持続可能な社会づくりに貢献していることを示しています。再生可能エネルギーを活用した非接触充電システムは、ユーザーに快適な体験を提供するだけでなく、運営コストの削減や環境負荷の低減という大きなメリットをもたらしており、これからのシェアサイクルサービスの発展に欠かせない要素と考えております。



長野県上田市・千曲市で非接触充電に対応したサイクルポートと自転車を利用したシェアサイクルシステムを提供し、バッテリー交換やバッテリー切れによる機会ロスの削減、およびバッテリー交換の運用から発生する温室効果ガスの低減を検証した。（ドコモ・バイクシェア）